



小林市立小林小学校

校長通信

令和6年1月10日

第46号

(文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3510

E-mail:1401eb@miyazaki-c.ed.jp6

## 年の初めに思うこと

年末に準備していたこの通信ですが、元旦夕方に起きた能登半島大地震により、一部書き直すことになりました。被害にあった地域にも同じ小学生、その家族、そして学校があると思うと心が締め付けられる思いです。ご親戚やお知り合いを心配されている方もおられることでしょう。一日も早く、温かい平穏が戻ることを願い、自分たちにできることはないか考えたいと思います。

ご家庭では、どのような年の初めを迎えられましたか。年が変わっても同じお日様が昇るわけですが、新しい年として迎えることで心を切り替え、苦しみや悲しみも乗り越える節目としたいと考えたところです。

今年も「みんなであつくる小林小学校」を子どもと一緒に推し進めたいと思います。よろしくお願いいたします。

クイズ「何という生き物でしょう。」「わかったところで答えよう。」「早押し?問題です。では…」

「頭はラクダ」「目はうさぎ」「耳は牛」「角はシカ」「爪はタカ」「手のひらはトラ」…

お分かりでしょうか。答えは、今年の干支「龍(竜)」です。十二支の中で唯一想像上の動物?ですね。しかし、干支の漢字を並べるときは「辰」。

本来十二支とは方位や時刻を表すもの。のちにそれに生き物をあてはめたということですので、漢字が違うことは理解できます。

と、いうわけで、ここでは勝手に理由を思いめぐらすこととしましょう。

干支の元となった「方角」や「時間(暦)」は、人間が稲作などの農耕をスムーズに行うために考え出したもの。庶民にもわかりやすく身近な生き物に置き換えるうちに、一年を「〇」とし「し」とする考えが広まっていったのでしよう。

干支の先頭はネズミ。用心深い牛が早く出発することを見越したネズミは、牛の背中に乗り、ゴールで鼻先から飛び降りて神様のもとに一番に駆け付けた…。寓話には動物たちの性格も読み取れますが、肝心の「龍(竜)」は詳しく描かれていません。5番目という順番も中途半端です。

しかし一方で「龍(竜)」は、古代中国から王の装飾品に描かれるなど、神の力を宿す存在でもありました。

そこで、改めて「龍(竜)」が干支に並んだ理由を勝手に考えました。結論…

「神の力を持つ龍(竜)だからこそ人々に必要とされた。」

毎年繰り返される年でも、大きな転換が欲しいときがあります。甚大な災害の後の復興とか、個人でも「今年こそ」と決意する人生の転機を望むことがあります。そんな思いを神力のある想像上の「龍(竜)」に託したのではないのでしょうか。まさに今、災害や戦争の渦中にある人々のためにも、神の力を借りても安心できる平和な年の実現をみんなで祈りたいものです。

「辰」もまた、「草木が伸長し、形が整い、活気にあふれている様子」を表すといえます。

今年には明るい陽射しがどの人にも降り注ぐことを期待したいものです。十二年に一度の大切な年。子どもたちにとりまして、飛躍の年となりますように。

**支援活動計画中です** 能登半島地震の被災地支援については、子どもたちとも話し合いながら、学校として何かできないか検討してまいります。保護者の皆様の理解とご協力を必要とする事になろうかと思っております。計画が整いましたらご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

新聞報道もありましたが

本校150周年に寄付をいただきました 中山成彬 様をお招きして

完成した時計台の下で感謝集会を行いました。(令和5年 12月 22日)



集会の後には6年生を対象にご講演もいただきました。

偉大な先輩の話に6年生も真剣に聞き入っていました。



「みんなで考え みんなでつくる みんなの小林小学校！」